

太田東西かわら版 2013.4

別れは「出会い」終わりは「始まり」



平成25年3月31日(日)
次男坊が旅立っていきました・・・

あらためて我が家のことを紹介しますと
4人家族で息子が2人。兄のほうは今春から大学4年生。
次男坊が大学1年生。いずれも東京生活です。

ということで
ついに我が家も、夫婦2人の生活となりまして
夫はまだしも、産みの母の胸中はいかに・・・

子離れの「免疫」は3年前の長男の巣立ちで獲得していたはずでしたが
父、ちっとも得てなかったみたい(泣)

「子離れ」って、ホント難しいですね・・・

一般に、子どもが小学生までが「家族ランランのピーク」かもしれませんね。
海水浴、バーベキュー、旅行など・・・子どもはいつも親と一緒に。
しかし中学生くらいから、一転して反抗期。
「お父さんお母さんと一緒にいい！」だったのが、だんだんウザがられる・・・
親よりも、友人～カノジョカレシ～部活～ケータイ。

でも、それは子どもとして健全な歩みです。
高校生になっても、「オレは友だちより、お母さんと一緒にいたいんだ！」
それじゃ昔、テレビドラマにあった、マザコン冬彦さんですね・・・(><)

子どもは親の全面的な庇護のもとに育ち、大人になっていく。
身体もどんどん成長していき、交友関係も広がる。
一方の親は
子どもに愛を与え続け、自分の時間を捧げながら、身体は老化していく・・・

子どもは、体力、希望、夢、右肩上がりにグングン上昇↑
しかし、親は反対に
下降の一途・・・

親はその下降の途中で、子どもの巣立ちに見舞われる。
あれだけ言うことを聞かない子どもにイライラしたのに、それがいなくなると
毎日の生活に活気がなくなり、虚無感におそわれる。
夫は相変わらずマイペース・・・会話もなければ、笑顔も、新鮮味もない。

「私の人生って？ 家族って、子育てって、子どもって何なの??？」

喪失感、孤独感、寂寥感・・・

**特に女性の場合、子どもの自立と身体変化（閉経前後の女性ホルモンの低下）
が重なりやすく、うつ症状が出やすいので要注意！**

そこに「傍若無人のワガママ夫」が重なると、ほぼ100%発現します。
眠れなくなり、病院を受診すると「空の巣症候群」と診断されたり。

今春、我が家と同じように子離れの渦中にあるお客様、またこれから
それを迎えるお客様、その乗り越え方を伝授させていただきます。

「終わった…」ではなく「チャレンジ！」

子どもの進学、就職、結婚。

それに併せて「子離れしなくては…」 「もう私は必要のない存在だから…」
それが「空の巣症候群」の原因です。

いいんですよ！ 無理して子離れしようとしなくても！

世の男たちは、「もう子どものことは放っておけ！」と言うかもしれませんが
妊娠、分娩、授乳という無償の愛を与えた母親が、そんな簡単に割り切れる
はずがありません。

子離れしなければと意識することが、我慢抑圧となり、病気の原因になったり
しますから。そのストレスが嫁に向けられると、嫁姑問題に（笑）
人間、別れの最難関が「母子分離」ですからね。

では、どうしたらいいか？

子どもが新しいことを始めて、新しいことに動き出して巣立つのですから
親も同じことをすればいいんですよ！

親も「新しいことにチャレンジする」のです！！

「別れ＝出会い」「終わり＝始まり」という発想

子どもの巣立ちは、親にとっても

新しい出会い、新しい発見、新しい体験、始まりのタイミング！

そうした発想の転換と行動力があれば、しぜ～んに子離れできます。

「あくまでも主体は自分！」 自分の人生を大切にする生き方です。

「お金がない、時間がない、自信がない、もう歳だから・・・」

そのマイナス思考が、その言い訳が、孤独と寂しさを増大させるのです。

子どもが親に願うことは、親の「健康と笑顔」「夫婦円満」。

子どもが巣立っていく時に、親が直面させられることが「夫婦関係」です。

さて、我が家はどうか??

おかげさまで目下、夫婦円満です。

妻は、フラダンスに、ゴルフに、さらに燃えることでしょう！

夫は、『マーヤの里』実現に向けて、チャレンジです～～(^O^)/

『かわいい子には旅をさせよ』

その次男坊を空港に送っている途中で
空港行の高速バスが目に留まりました。
そして思い出しました。

「あのバスに、30年前乗ったんだよな～」
そう、今の次男坊のように、東京に進学する
自分の、その旅立ちの朝のことを・・・



通勤する母親と一緒にバス停まで行って、一人乗車。

「じゃあ、行ってきます」 ポーカーフェイスでお別れを言って。
窓の外に目をやると、まだ母親が見送っていた。

「発車します！」運転手さんの声。

と、とたんに、涙が出てきた・・・肩を震わせて泣いた・・・

のを、よく覚えているんですよね（笑）

30年前の、ほんの数分のことを、ですよ。

当時は今みたいにケータイもパソコンもなく、連絡の手段は公衆電話か手紙。
東京に頼りになる知人友人もなく・・・

今更ながら、よく一人決起して巣立ったものだと、我ながら感心します。

では、

子離れ下手な父が、どうして息子たちに上京の背中を押したのか？
それは自分自身に「その経験」「その学び」があったからです。

親から、家から、長崎から、一度離れてみてはじめて

親の有難さ、家の居心地、故郷の良さがわかったという経験と学びです。

新しい文化や人に触れ、経験と見識を増しながら、古(いにしえ)を振り返る。
人は失ってみてはじめて、その良さ、その本質を実感するものです。

健康を失って、健康の有難さを実感するように。

子どもの巣立ちは寂しいことですが、それは「家族の新陳代謝」に必要不可欠。
その新陳代謝を繰り返しながら、子も親も強くなっていくのです！
家族の絆も深まっていくのです！